

他者と協働して主体的に学ぶ児童の育成 ～社会科における児童 1 人 1 台端末を活用した対話的な学びを通して～

那覇市立古蔵小学校教諭 國場 健志

〈研究の概要〉

令和 3 年度より、学校における 1 人 1 台端末環境下での新しい学びがスタートした。私は、主にドリル学習や調べ学習で児童に端末を活用させ、自分のペースや興味・関心に応じた学習を促すことができた。ただ、学びが個に留まっており、児童同士の学びを繋ぐことができていないという課題を感じた。また、児童の発達段階や教科の目標に沿った活用の仕方にも課題を感じ、解決していきたいと考えた。

本研究では、第 3 学年社会科における、課題を追究・解決する過程において、端末を活用させ、対話的な学びを促し、他者と協働して主体的に学ぶ児童の育成を図った。

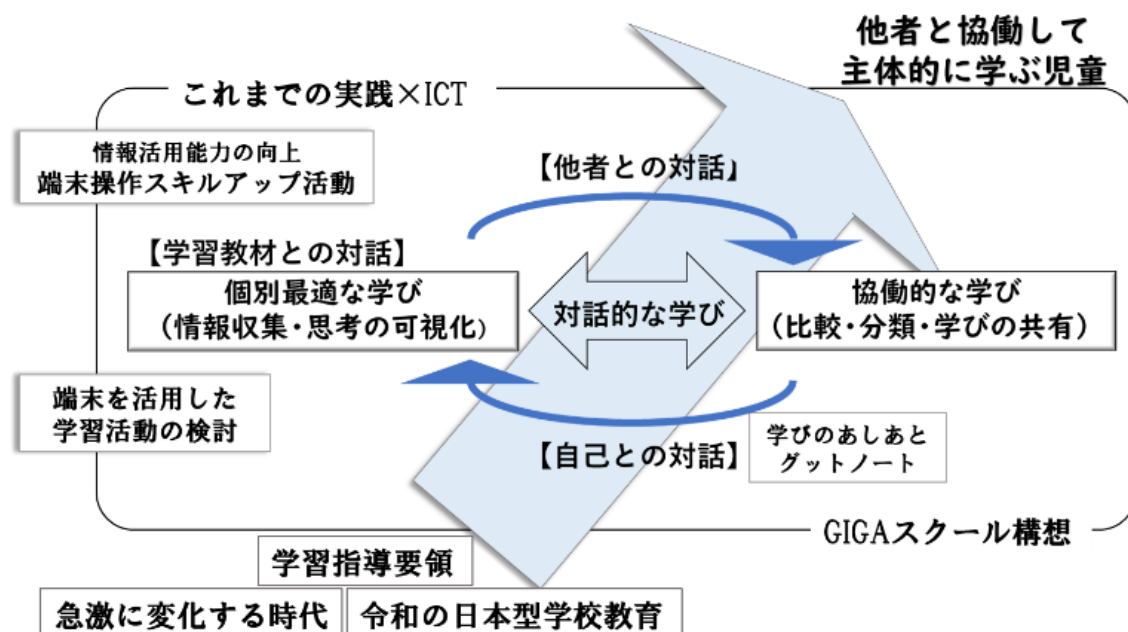
単元学習前から、児童の情報活用能力・端末操作スキルの実態把握と向上を図るため、朝の学習時間で「楽しく・短時間で・継続的に」実施できる「端末操作スキルアップ活動」を実施した。この活動により、様々な操作スキルを身に付けさせることができた。

課題を追究する過程においては、個々の端末に様々な資料を共有し、自分のペースで情報を収集させたことで、考えを持ってグループ活動に取り組ませることができた。また、端末を活用して他者と比較・分類させたことで、協働して学習に取り組ませ、考えを広げさせることができた。

課題を解決する過程においては、全体やグループ、個々の学びを端末で視覚的に共有したことで、時間の制約を超えて振り返らせることや多くの他者の考えに触れさせることができ、自己の学びを調整しながら考えを表現させることができた。

これらの端末を活用した対話的な学びを通して、他者と協働して主体的に学ぶ児童の育成が図られたと考える。

〈研究のイメージ〉



目 次

I	テーマ設定理由	21
II	研究目標	21
III	研究仮説	22
1	基本仮説	
2	作業仮説 (1) (2)	
IV	研究構想図	22
V	研究内容	22
1	他者と協働して主体的に学ぶ児童について	
(1)	他者と協働して主体的に学ぶ児童の育成	
(2)	主体的に学ぶ児童	
2	情報活用能力・端末操作の育成	
3	端末を活用した対話的な学びについて	
4	社会科における学習活動の工夫	
(1)	考えを広げ深める工夫	
(2)	視覚的な学びの共有	
VI	授業実践(第3学年)	26
1	単元の概要	
2	単元の指導と評価の計画(全11時間)	
3	本時の学習指導について	
(1)	本時の目標	
(2)	授業仮説	
(3)	本時の展開(第10時)	
VII	結果と考察	27
1	作業仮説(1)の検証	【結果】【考察】
2	作業仮説(2)の検証	【結果】【考察】
VIII	成果と課題	30
1	成果	
2	課題	

《主な参考文献》

《小学校 ICT 教育》

他者と協働して主体的に学ぶ児童の育成 ～社会科における児童 1 人 1 台端末を活用した対話的な学びを通して～

那覇市立古蔵小学校教諭 國場 健志

I テーマ設定の理由

近年、我が国ではグローバル化や情報化等により、社会構造や雇用環境は大きく急速に変化し予測困難な時代となっている。このように急激に変化する時代の中で、中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」（令和 3 年 1 月）では、次代を切り拓く子供たちに求められる資質・能力として「教科等固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力、対話や協働を通じて知識やアイディアを共有し新しい解や納得解を生み出す力」などを挙げている。このような資質・能力を育むため、学校教育を支える基盤的なツールとして、ICT が必要不可欠なものとなり、GIGA スクール構想によって整備された、高速大容量のネットワーク環境と児童 1 人 1 台端末の活用が推し進められている。端末導入当初は感染症による臨時休校や分散登校への対応として整備が進み、教育活動を継続するための学校と家庭を繋ぐツールとして、試行錯誤で使用し始めることが多かった。現在は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のツールとして活用の充実が図られている。

本市においても令和 3 年度より端末が導入され、私は主に学習到達に応じたドリル学習や調べ学習において活用を進めてきた。これにより、児童は自分のペースで学習を進めたり、興味・関心に応じて調べたりすることができるようになり、これまで以上に意欲的に学ぶ姿が見られ、端末活用の有効性を感じた。ただ、学びが個に留まっており、児童同士の学びを繋ぐまで至っていないという課題を感じた。また、情報担当として端末の活用促進を図る中、児童の実態や発達段階に沿った活用の仕方や、各教科の目標に沿った活用、指導の工夫においても課題を感じ、解決していきたいと考えた。

ICT の特性・強みを生かし、児童に端末を活用させることで、個の学習を充実させながら、多様な他者と学びを共有し、協働して学習に取り組ませることが可能だと考える。例えば、諸資料（写真・動画等）を個々の端末に共有することで、自分のペースで情報を読み取り、考えをもって他者と交流することができると思う。また、授業時間内では伝え合うことができなかった児童の考えを、個々の端末に共有することで、多様な考えに触れることができると思う。

そこで本研究では、社会科における、課題を追究・解決する過程において、端末を活用した対話的な学びを通して、他者と協働して主体的に学ぼうとする児童の育成を目指し、本テーマを設定する。

II 研究目標

他者と協働して主体的に学ぶ児童を育成するために、社会科における、課題を追究・解決する過程において、ICT の特性・強みを踏まえた端末の活用により、自らの考えを広げ深める、対話的な学びを実践的に研究する。

Ⅲ 研究仮説

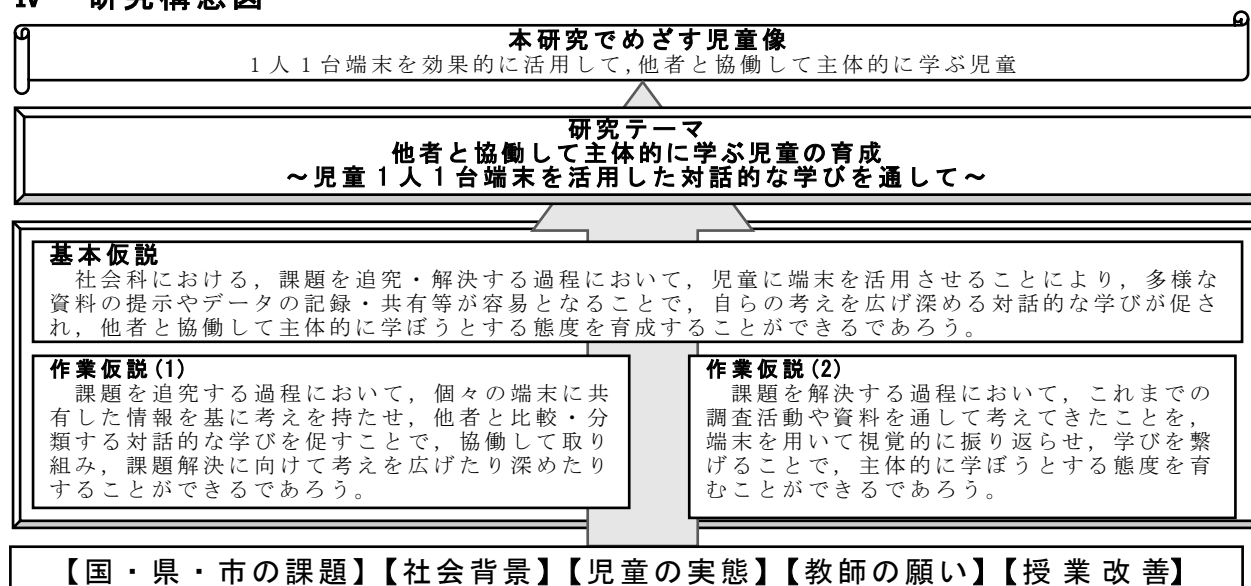
1 基本仮説

社会科における，課題を追究・解決する過程において，児童に端末を活用させることにより，多様な資料の提示やデータの記録・共有等が容易となることで，自らの考えを広げ深める対話的な学びが促され，他者と協働して主体的に学ぼうとする態度を育成することができるであろう。

2 作業仮説

- (1) 課題を追究する過程において，個々の端末に共有した情報を基に考えを持たせ，他者と比較・分類する対話的な学びを促すことで，協働して取り組み，課題解決に向けて考えを広げたり深めたりすることができるであろう。
- (2) 課題を解決する過程において，これまでの調査活動や資料を通して考えてきたことを，端末を用いて視覚的に振り返らせ，学びを繋げることで，主体的に学ぼうとする態度を育むことができるであろう。

Ⅳ 研究構想図



Ⅴ 研究内容

1 他者と協働して主体的に学ぶ児童について

(1) 他者と協働して主体的に学ぶ児童の育成

「他者と協働して主体的に学ぶ児童」を育成していくためには，児童一人一人が学習課題と向き合い，自分の考えを持って，他者と課題解決にあたることが大切だと考える。そのためには，個に応じた指導と他者との協働を促す指導を，共に充実させていく必要がある。このような授業改善に向けて文部科学省は，「令和の日本型学校教育」（令和3年1月）（以下，「令和3年答申」）において「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指針の中で，「児童1人1台端末（中略）を最大限に生かし，（中略）これまでの実践とICTとを最適に組み合わせることが必要」と示している。

そこで、これまでの教育実践を土台とし、教科学習での適切な端末の取り入れ方について検討していく。

(2) 主体的に学ぶ姿

「小学校学習指導要領解説総則編」(以下「解説総則編」)によると、「主体的な学び」とは、「学ぶことに興味や関心を持ち、(中略)、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる」学びと示されている。このような学びは、他者と協働する体験を通してより一層高めていけると考える。なぜなら、解決すべき課題に対して自分なりに考えたことを他者と交流していく中で、新たな気づきを得る喜びや切磋琢磨する楽しさ、伝える難しさ等を感じることで、さらに学ぼうとする気持ちが高まっていくと考えるからである。本研究では、社会科において主体的な学びを育むため、「小学校学習指導要領解説社会科編」の第3学年の目標における、「社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度」を踏まえ、主体的に学ぶ姿を「学習課題に取り組むことを通して、児童同士や様々な人と協働しながら粘り強く取り組み、調べたことや考えたことを表現しようとする姿」と捉え、育成を図っていく。

その際、端末を積極的に活用させ、他者との協働を促すため、事前に端末操作に慣れるよう「端末操作スキルアップ活動」を作成・設定し、操作スキルの実態把握と定着を図る。また、社会科の目標を踏まえ、端末を活用した学習活動を検討する(図1)。

2 情報活用能力・端末操作の育成

端末操作スキルは、「解説総則編」において、「情報手段の基本的な操作」として情報活用能力(各教科等の学びを支える基盤)に位置付けられている。本市においては、この情報活用能力の段階表が示され、各学校で育成状況の把握や目安として、実態に応じた取り組みが図れるように示されている(表1)。この段階表において、本単元の学習に関連が深い「基本的な操作等」と「問題解決・探究における情報活用」に着目し、「端末操作スキルアップ活動」を表2のように構成した。本学級の児童の発達段階(第3学年の1学期)とこれまでの端末活用の状況を踏まえ、低学年の段階を基に、端末操作スキルの実態を捉えながら、定着を図る。児童が活動の中で無理なく操作スキルを高められるようにするため、朝の学習時間を生かし「楽しく・短時間で・継続的に」を念頭に取り組ませる。

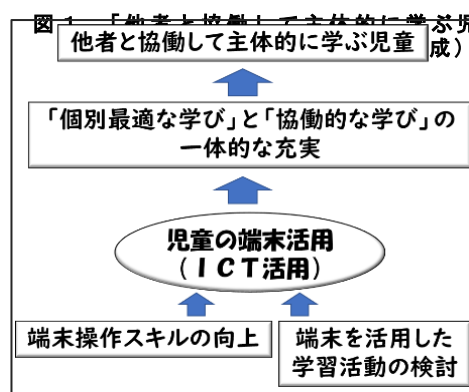


表1 情報活用能力の段階表
【那覇市版】から一部抜粋

要素	観点	低学年	中学年
基本的な操作等	知・技	☐ PCやタブレットの基本的な操作ができる。 ☐ 写真や動画を撮影・編集・共有できる。 ☐ 身近な事象について、インターネットや電子メールなどを用いて調べることができる。	☐ 電子ファイルの検索や整理ができる。 ☐ 文本文字の作成・編集・共有ができる。 ☐ 学習資料や教材の活用ができる。
		☐ 身近な事象について、インターネットや電子メールなどを用いて調べることができる。	☐ 学習資料や教材の活用ができる。
		☐ 身近な事象について、インターネットや電子メールなどを用いて調べることができる。	☐ 学習資料や教材の活用ができる。
問題解決・探究における情報活用	知・技	☐ 身近な事象について、インターネットや電子メールなどを用いて調べることができる。	☐ 学習資料や教材の活用ができる。
		☐ 身近な事象について、インターネットや電子メールなどを用いて調べることができる。	☐ 学習資料や教材の活用ができる。
		☐ 身近な事象について、インターネットや電子メールなどを用いて調べることができる。	☐ 学習資料や教材の活用ができる。

表2 端末操作スキルアップ活動（筆者作成）

時間	活動名	活動内容 (使用アプリ: ジャムボード)	活動のねらい
1	自由にさわろう	どのような機能があるか自由に触る。	・PCの起動・終了を含めた「端末の準備・片付け」
2	図形を使って顔づくり	教師が作成したお手本を基に図形機能を使って顔を作る	・PCの起動・終了を含めた「端末の準備・片付け」
3		図形機能を使って自分でオリジナルの顔を作る。	・図形機能の操作 ・図形機能の操作 ・端末で思考の表現
4	好きな写真をはろう	好きな生き物の画像を検索し、選んで貼り付ける。	・文字入力・画像検索 ・画像の貼り付け・画像の拡大縮小
5	写真をはって名前付け	貼り付けた画像の横にテキストボックスを使って生き物の名前を書く。	・文字入力 ・テキストボックスの操作
6	ふせんしりとり(個人)	付箋機能を使って、個人でしりとりをする。	・文字入力 ・付箋機能の操作
7	ふせんしりとり(ペア)	付箋機能を使って、ペアでしりとりをする。	・文字入力・付箋機能の操作(色分け)
8			・ペアと共同作業
9	写真あてクイズ	ペアが貼り付けた生き物の画像の名前を当てる。	・文字入力・画像検索 ・画像の貼り付け・画像の拡大縮小 ・付箋機能の操作(色分け)・ペアと共同作業

3 端末を活用した対話的な学びについて

児童に端末を活用させる際は、対話を促すツールとして活用させ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図っていく。

中央教育審議会答申（平成28年）では、「対話的な学び」について「子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める」としており、他者や教材等との関わりを通して自己の考えを広げ深めることとしている。また、白水始（2020）は、子どもの考えの深まりについて「それがモノとの対話、人との対話、自分との対話を通じて、実に徐々にしか生じないもの」とし、対話の対象を「モノ」「人」「自分」と捉え、対話から学ぶ力を生かす授業をデザインしていく必要があるとしている。

これらを踏まえ、本研究では対話の過程を『一人一人の児童が自分の既存の知識や経験をもとに【学習教材との対話】を行い、【他者との対話】をすることによって、自分一人では捉えることができなかった新しい考えに出会い、それらを踏まえ、もう一度自分の考えを振り返って、【自己との対話】を行うことで、自分の考えを再構築していく過程』とする（図2）。

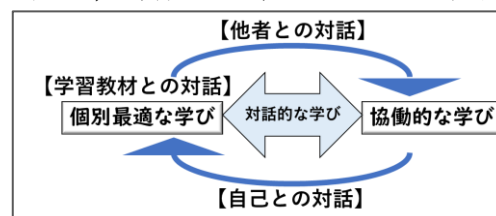


図2 考えを広げ深めさせていく対話の過程（筆者作成）

表3 社会科における端末の特性・強み（筆者作成）

対話的な学び	端末の特性・強み
【学習教材との対話】	①資料提示が容易である ②情報量を多くすることが容易である ③自分のペースで操作しながら学習を進めることが容易である
【他者との対話】	④考えや意見の集約が容易である ⑤学習したことについてマルチメディア（写真や動画など）を使ってまとめたり、表現したりすることが容易である
【自己との対話】	⑥情報を蓄積することが容易である

文部科学省「情報化に関する手引き」参考

4 社会科における学習活動の工夫

(1) 考えを広げ深める工夫

第3学年社会科「店ではたらく人と仕事」の単元を構成する際、「情報化に関する手引」の「学校におけるICTを活用した学習場面」（表4）と社会科における端末の特

性・強み（表3）を照らし合わせ、単元構成と使用するアプリ（表5）を検討し、表6のように再構成した。

課題を追究する過程（第4時～第9時）においては、多様で豊富な資料に触れさせ、児童が自分のペースで見ながら、様々な気づきを得られるようにしていく。そして、読み取った情報を基にペアやグループと比較・分類していく場面では、写真資料等を使いながら考えを表現させ、それらを共有しながら交流させていく。端末の活用により【学習教材との対話】と【他者との対話】の充実を図ることで、児童の思考を広げ深めていく。

表4 ICTを活用した学習場面（「情報化に関する手引き」より抜粋）

A 一斉学習	B 個別学習		C 協働学習	
A1 教員による教材の提示	B1 個に応じた学習	B2 調査活動	C1 発表や話し合い	C2 協働での意見整理
B3 思考を深める学習	B4 表現・制作	B5 家庭学習	C3 協働制作	C4 学校の壁を越えた学習

表5 使用するアプリ

アプリ名（略称）	機能
Google スプレッドシート（スプレッドシート）	表作成から高度な関数を利用した集計まで可能な表計算ソフト
Google フォーム（フォーム）	児童生徒にアンケートを採ってリアルタイムで意見を集約、可視化できるアプリ
Google Jamboard（ジャムボード）	低学年の児童でも直感的に使えて、手書き入力もできるデジタルホワイトボード
Google Classroom（クラスルーム）	課題の一元管理や児童とコミュニケーションが取れる授業支援アプリ
Google スライド（スライド）	プレゼンテーションアプリ
Zoom	オンラインビデオ会議ツール
Google マップ（マップ）	地図情報を閲覧できるアプリ

表6 第3学年社会科「店ではたらく人と仕事」における端末の活用（筆者作成）

時間	学習場面	端末の特性・強み	学習活動と使用するアプリ（下線）
1時	A1	①	スライドに提示した買い物の金額を基に、普段の買い物について全体で話し合う。
2時	C3	①④	スプレッドシート、フォームを使って、それぞれの児童が調査したことを集計し、グラフ化する。
3時	B2	①③	ジャムボードに貼り付けたレシートの写真を観察する。
	C1	④	売り上げを高める方法の予想を、クラスルームに書き込む。
4時	C1	④	イラストから気づいたことをジャムボードに出し合う。
5時	B2	①②③	店内の写真資料をスライドに貼り付け共有し、それを基に情報収集を行う。
6時	B2	①②③	店内の動画資料をスライドに貼り付け共有し、それを基に情報収集を行う。
7時	C4		zoomによるオンラインインタビューにより、調査活動を行う。
8時	C1	①②③	スライドに提示した店内の写真を基に商品の産地を確かめる。
	B2	③	マップを使って、外国の位置を調べる。
9時	C2	①③⑤	ジャムボードを使って、客の願いと店の工夫の繋がりを整理する。
	C1	①②③	スライドに提示した店内の写真から客の願いを考える。
10時	B4	②④⑤	ジャムボードに、店内の写真から良い工夫だと思う写真を選び、貼り付け、どのように客の願いに込めているかを表現する。
	C2	③④	ジャムボードに表現したことをグループの友だちに伝え、意見交流を行い、考えを整理する。
	C1	④	ジャムボードに表現したことを電子黒板に映し出し、話し合う。
11時	C2	④	スーパーマーケット以外の店の利点をグループで話し合い、ジャムボードに書き出す。
	C1	④	ジャムボードに書いたことを電子黒板に映し出し、全体で話し合う。

（2）視覚的な学びの共有

課題を解決する過程では、これまでの学習活動を通して考えてきたことをグループや全体と共有し合い、考えをまとめさせていく。そのため、各時間にグループで出した考えや個人の考えを端末で共有し、いつでも児童がより多くの他者の考えに触

れられるようにする。方法としては、各グループや全体で取り組んだ学習活動の記録や考えを示した成果物（グループワークのシートや板書等）は「学びのあしあと」として、児童がノートに書いた気づきやまとめ、振り返り等は「グットノート」としてスライドで共有する。これにより自分の学びと他者の学びを比較しながら振り返りやすくすることで【自己との対話】を促し、課題解決に向けて学びを繋げ、調べたことや考えたことが表現できるようにしていく。

VI 授業実践（第3学年）

1 単元の概要

単元名	大単元2 はたらく人とわたしたちのくらし 小単元1 店ではたらく人と仕事
内容のまとまり	地域に見られる生産や販売の仕事
単元の目標	(1) 地域に見られる販売の仕事の様子について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動や地図帳などの資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 販売に見られる仕事の工夫や特色、意味を考える力や、考えたことを表現する力を養う。 (3) 学習問題を追究・解決するために、地域に見られる販売の仕事の様子について意欲的に調べ、特色や相互の関連、意味について粘り強く考えたり、調べたことや考えたことを表現しようしたりする主体的な学習態度を養う。
働かせる見方・考え方	消費者の願い、販売の仕方、地域や外国との関わりなどに着目して、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現すること。

2 単元の評価規準

知識・技能【知技】	思考・判断・表現【思判表】	主体的に学習に取り組む態度【主体的態度】
① 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、販売に携わっている人々の様子を理解している。 ② 調べたことを白地図や関係図などにまとめ販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解している。	① 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、問いを見いだし、販売に携わっている人々の仕事の様子について考え表現している。 ② 消費者の願いと販売の仕方を比較・関連付けたり、わかったことを総合するなどして販売に携わっている人々の仕事に見られる工夫を考えたり、学習したことをもとに社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。	地域に見られる販売の仕事について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

3 単元の指導と評価の計画

時間	学習活動	□学習を支える教師の働きかけ ★ 端末活用を促す教師の働きかけ	【評価項目】 （評価方法）	学校における ICT を活用した学習場面 （ 太字は、児童の端末活用による学習 ）
オリエンテーション	○地域には販売や生産の仕事があり、それらの仕事わたしたちの生活とどのような関わりがあるのか関心をもち、学習の見通しをもつ。	★ ペアと考えを共有するための、ジャムボードを用意し、意見交流が行えるようにする。	【思-①】 （発表） （ノート分析）	A1 働く人の写真 G2 ジャムボードで思いつく仕事を書き出しグループ分けを行う。
1	○家の人がどんな店で買い物をしているのか発表し、買い物調べの計画を立てる。	□行った店や買った品物などを調べて、カードにまとめる計画を立てることができるようにする。	【思-①】 （発表） （ノート分析）	A1 買い物の金額提示
2	○買い物調べの成果を発表し、お店のある場所や調べた人の人数を、地図や表・グラフにまとめ、気づいたことを話し合う。	★ 全体で買い物調べの集計ができるように、スプレッドシートを用意しておく。 ★ スプレッドシートで上手いかわからない時に、フォームも用意しておく。 ★ 集計結果をジャムボードに貼り付け、児童の端末に共有しながら、蛍光ペン機能を使い、色分けをして分析する。	【思-①】 （発表） （ノート分析）	G3 スプレッドシートによる集計作業 フォームによる集計作業 A1 集計結果のグラフ提示 校区地図の提示
3	○レシートを調べ、店が売り上げを高める工夫について話し合い、学習問題をつくる。 学習問題 お店ではたらく人たちは、どのようなくふうをして売り上げを高めているのだろう。	★ ジャムボードにレシートの画像を貼り付け、観察できるようにする。 ★ 売り上げを高める方法について、意見を瞬時に集められるように、クラスルームに課題（質問）を設定しておく。	【思-①】 （発表） （ノート分析）	B2 ジャムボードに貼り付けたレシートの画像の観察 A1 レシートの画像 G1 クラスルームの質問機能使った、売り上げを高める方法についての意見発表
4	○スーパーマーケットの工夫を調べる計画を立て、調べる視点を確認する。	★ 意見をジャムボードで共有できるように、クラスルームに設定しておく。	【知-①】 （ノート分析）	C1 仕事内容について、ジャムボードで意見を伝える。（教師による入力）
5	○スーパーマーケットの写真や動画から、売り場の様子や工夫について調べ、わかったことをカードに書く。	★ 店内の写真のスライドに貼り付け、児童の端末に共有し、個人で見られるようにする。	【知-①】 （行動観察） （ノート分析）	B2 スライドに貼り付けられたスーパーマーケットの店内の写真をもとに、お店の工夫を探す。
6	○スーパーマーケットで働く人たちが、それぞれどのような工夫をして仕事をしていかを調べ、指摘する。	★ 店内で働いている人の様子の動画をスライドに貼り付け、児童の端末に共有し、個人で見られるようにする。	【知-①】 （発表） （ノート分析）	B2 スライドに貼り付けられた動画をもとに、お店で働く人の仕事の様子を捉える。
7	○スーパーマーケットで働く方にオンラインでインタビューをし、お店の工夫や働く人の様子について理解を深める。	★ Zoomで店長と繋がり、インタビューが行えるようにする。	【知-①】 （発表） （ノート分析）	C4 スーパーマーケットの店長と Zoom によるオンラインインタビュー
8	○スーパーマーケットの商品の産地を調べ、白地図に位置づけ整理する。	★ スライドに提示した店内の写真から産地を見つけ出すよう促す。	【知-②】 （発表） （ノート分析）	G1 スーパーマーケットの店内の写真から、商品の産地を見つけ出す。 B2 マップを使って、外国の位置を確かめる。
9	○客や家の人が、買い物で気をつけていることを調べ、それについて店は何のように対応しているのか整理する。	★ お店の写真から、客が気をつけていることに対応する工夫を見つけジャムボードに貼り付けるよう促す。	【知-②】 （発表） （ノート分析）	G2 お客が気をつけていることと店の工夫の写真の組み合わせを考える。 G1 スーパーマーケットの店内の写真から、客

				が気を付けていることに対応する工夫を見つけ出す。
10 本 時	○客の願いと店の工夫との関係をまとめ、気がついたことを発表する。	★児童に店内の画像を共有する。 ★グループで考えを共有するジャムボードを用意する。	【思-②】 (発表) (シート分析) 【態】 (ノート分析)	B4 お店の写真をジャムボードに貼り付け、付箋で考えを書く。 C2 グループでジャムボードを共有し、互いの考えを比較・検討する。 C1 ジャムボードの画面を共有し、考えを全体へ共有する。
11	○スーパーマーケット以外の店や買い物の方法を調べ、さまざまな方法がある理由を考え、話し合う。	★グループで考えを共有するジャムボードを用意する。	【態】 (発表) (ノート分析)	C2 グループでジャムボードを共有し、スーパーマーケット以外の店の利点を出し合う。 C1 ジャムボードの画面を共有し、考えを全体へ共有する。

4 本時の学習指導について

- (1)本時の目標
店の仕事は客の願いを踏まえて売り上げを高めるよう工夫していることについて、店内の写真をもとに話し合う活動を通して考え、表現することができる。
- (2)授業仮説
店の工夫から客の願いを考える場において、端末を用いて比較・分類する活動を通して、店は様々な立場の客の願いに応えていることに気づくことができるであろう。
- 店がどのようにして売り上げを高めているかを書く場面において、これまでの学習を ICT で振り返りながらキーワードを確かめることによって、店は客の願いに応えながら売り上げを高めていることを、表現することができるであろう。
- (3)展開 (第10時)

	学習活動	□教師の働きかけ ★端末活用を促す教師の働きかけ	評価規準 【評価項目】
導入	1 課題把握 学習を振り返り、客の願いと店の工夫を想起し、それぞれの繋がりについて考える。	★授業開始前から「グットノート」を見るように促す。 □前時の学習の振り返りから本時の学習に繋がる考えを紹介する。	
展開	2 めあて お客さんの願いとお店のくふうのつながりから、学習をまとめよう。		
	3 課題追究 店内の写真資料から「お店の工夫」を探し出し、どのような「お客の願い」に応えているか考え、ジャムボードに書く。	★前時で選んだ店内の工夫が見られる写真に、ジャムボードの付箋機能を使って、「お客の願い」を書き、「お店の工夫の視点」に合わせて、色を分けるように指示する。 (ねだん→黄、品ぞろえ→緑、新鮮さ→青、べんり→ピンク、その他→オレンジ)	【思-②】 これまでの学習を総合的に振り返り、「お客の願い」と「店の工夫」を関連づけ、ジャムボードに適切に表現しているか、発言や作成したシートをもとに評価する。
	(1)個で考える ジャムボードの付箋機能を使い、「お客の願い」を書き出し、色分けをする。	□整理が早くできた児童には、様々なお客の立場を振り返らせ、別の立場から「お客の願い」を付け足すことができないか考えさせる。	
	(2)グループ内で発表する。 グループで互いのジャムボードのシートを見合いながら、比較・分類し、考えを広げ深める。	□「お店の工夫」と「お客の願い」について考えを伝え合いながら、「お客の願い」を付け足すことができないか、色分けは適切かをグループで考えさせる。	
	(3)全体に共有する。 グループに伝えたことを全体に共有する。	□グループで発表したことを全体に共有するように促す。	【態-①】 これまでの学習を振り返りながら、学習問題に対する自分の考え表現しているか、発言やノートをもとに評価する。
	5 課題解決 学習問題「お店ではたらく人はどのようにして売り上げを高めているか」に対する自分の考えを書くように促す。	★これまでの学習を「学びのあしあと」で振り返り、キーワードを確かめる。 □学習問題「お店ではたらく人はどのようにして売り上げを高めているか」に対する自分の考えを書くように促す。 □話し合ったことを振り返りやすくするため、自分やグループ、他のグループのジャムボードを見て書いてもよいことを伝える。	
終末	5 まとめ お店は、お客さんによるこんで買ってもらえるように、ねだん・品ぞろえ新せんさ・べんりさなどをくふうして売り上げを高めている。		
	6 振り返り	□単元を通して学習したことを振り返り、これからの買い物で活かしていきたいことやもっと調べて見たいことを考えさせる。	

Ⅶ 結果と考察

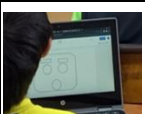
1 作業仮説(1)の検証

課題を追究する過程において、個々の端末に共有した情報を基に考えを持たせ、他者と比較・分類する対話的な学びを促すことで、協働して取り組み、課題解決に向けて考えを広げたり深めたりすることができるであろう。

【結果】

本単元前から実施した「端末操作スキルアップ活動」では、児童は楽しみながら積極的に活動し、端末操作スキルを身に付ける姿が見られた(表7、表8)。文字入力については、最初は気軽な音声入力を使用

表7 操作スキルアップ活動の記録

2. 図形を使って操作 	3. 図形を使って操作 	4. 好きな写真をはろう 	5. 写真を貼って名前付け 
6. ふせんしりとり(個人) 	7. ふせんしりとり(ペア) 	8. ふせんしりとり(ペア) 	9. 写真あてクイズ 

今回は社会科見学を実施することが厳しい状況であったため、第5・6時には、店内の様子がわかるスライド資料を教師が作成し、これを基に情報を読み取る活動に取り組ませることにした。授業の中で初めてスライド資料を扱ったが、「端末操作スキルアップ活動」により、端末操作に慣れていたため、どの児童も意欲的にかつ集中して学習を進める様子が見られた。資料から情報を読み取る際、資料を拡大したり、自分のタイミングでスライドを進めたり戻したりし、興味・関心やペースに応じて活動を進める様子が見られた。事後アンケートからは「写真資料の読み取り」や「動画視聴による調べ学習」が行えたことで、必要な資料を自ら選び、読み取ることができたことを実感している記述内容が多く見られた(表10)。

前時で特に工夫を感じた写真を選び、理由をジャムボードに表現し、グループや全体で話し合った。これらの活動では、共同編集機能を使い、友だちが表現したことを自分の端末で確かめながら話し合い、工夫の視点に沿って付箋を色分けし、分類することができていた。事後アンケートからは、一斉学習の場面では積極的に発言する様子が見られない児童から、「ぼくも意見を入れられるから良い」との記述が見られた（表 10）。単元前後のアンケートを比較すると、「友だちと話し合って学習することのよさ」について、自分の考えを広げることができることを記述する児童が、14人から18人に増加した。

第5・6時では、端末に共有した資料から情報を書き出させ、グループで共有することがねらいであったため、児童が素早く書ける付箋紙も活用した。多くの情報をグループで比較・分類させることができたのは、端末は情報を読み取るツール（【学習教材との対話】）として使い、付箋紙は考えを書き出すツールと分けることで、学習能率を上げられたからだと考える。第9時・10時は、写真を根拠に自分の考えを伝え、他者と交流することがねらいであったため、ジャムボードに写真を貼り付け、文字を入力して表現させた。考えを出し合うことや比較することにジャムボードが便利だと感じたのは、写真や付箋の変更などが容易にでき、試行を繰り返せたこと（表3-⑤）や、距離に関わりなく瞬時に双方向で考えを確認できたこと（表3-④）で、【他者との対話】を円滑に行えたからだと考える。

2 作業仮説(2)の検証

【結果】

まとめで考えを表現させる場面では、単元前半は自分の言葉でまとめることが難しい様子が見られたため、一緒に書くようにした。第8時で

	内容(人数) ※回答数 30人	児童の記述
学びのあしあと	自分のグループと他のグループの考えを比較できた(11人)	ほかのグループと自分のグループの考えをくらべてみてきていいなと思いました。
	他のグループの考えを知ることができた(7人)	グループごとにいろいろはききまわし、考えがまたくわしくなれて、かんどうしました。
	学習を振り返ることができた(5人)	ふいり、えんがしでずかたであんなに、 の字の書き方を教えているのが、 いい。写真をお互に見て、よかったことに なるけど、ノートでわかるようにがんばる よって、よくわかり おかげで、よくできました。
	肯定的な回答 (理由なし)(7人)	見られてよかった。
グットノート	自分と友だちの「まとめ」や「振り返り」を比較できた(17人)	それぞれ理由がちがうにした理由の人も見れてすごかった。
	書くときの参考にした(7人)	みんなのノートを見て、ここに書いてある、よくノートをみるのもいいなって、またちゃんとやることと書いておきました。
	その他(6人)	グループに自分のノートを持っていかなくて、みんながみえて、

は、教師が示した補助的な文に自分の考えを加えてまとめるように促し、第 9・10 時（本時）では、各自でまとめを書くようにした。児童のノート进行分析すると、まとめに関して本時は、84%の児童が自分の言葉でまとめを書いており、37%の児童が単元のキーワードを使ってまとめていた。また、振り返りに関しては、学習を通して「理解したこと」だけでなく、「自分なりの考え」を記述する児童の割合が、第 5 時（課題解決の最初の時間）が 34%であったのに対し、第 10 時には 68%に増加した（表 12）。

【考察】

「学びのあしあと」（買い物調べで集計・分析したグラフ、学習問題、板書、グループワークのシート、活動の様子等）と「グットノート」（個々の気づき、まとめ、ふりかえり等）を端末で視覚的に共有したことで、自己の学びを調整し、自分なりの考えを表現することに繋がったと考える。事後アンケートの記述で「学びのあしあと」について、「今までの学習がすべてのっている」や「タブレットで見たら、じゅんばんよく見て、ゆっくり見られるからべんり」とあるように、多様で大量の学びの記録を蓄積（表 3-⑥）し、各自が時間の制約を超えて視覚的に振り返ることができたのは、端末活用の可能性を大いに示す結果となった。教師が選んだ、自分なりの考えが書けていたり、次の学習へ繋げようとしていたりする記述を児童へ「グットノート」として共有することで、自分のフィードバックだけでなく、他者の様々なフィードバックを確認させることができた。児童はこれらのノートの記述内容を比較し、【自己との対話】によって考えを深め、次の学びに生かすことができたと考える。

このように、課題を解決する過程において、これまでの調査活動や資料を通して、学級全体で考えてきたことを端末を用いて視覚的に振り返らせ、学びを繋げることは、主体的に学ぼうとする態度を育むことに有効だったと考える。

Ⅷ 成果と課題

1 成果

- （1） 課題を追究する過程において、個々の端末に様々な資料を共有したことで、自分のペースで情報を収集し、考えを持ってグループ活動に取り組み、端末を活用して他者と比較・分類させたことで、協働して考えを広げることができた。
- （2） 課題を解決する過程において、全体やグループ、個々の学びを端末で視覚的に共有したことで、時間の制約を超えて振り返ることや多くの他者の考えに触れることができ、自己の学びを調整しながら考えを表現することができた。

2 課題

継続的に児童に端末を活用させていき、他教科においても端末の特性・強みを生かした学習活動の取り入れ方について検討していく必要がある。

《主な参考文献》

- 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編』 文部科学省 東洋館出版社 2018
『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説社会編』 文部科学省 日本文教出版 2018